11 ユニセフ募金活動の経緯を発表し、弁論大会で入賞

報告者　富山県富山県立上市高等学校　高木哲也先生

ポイント

富山県立上市高等学校の生徒会執行部員のTさんが中心になって、６月から本校および本校所在地である上市市でユニセフ募金を行いました。その後、Tさんは９月に富山市で開催された「第56回学生ユネスコ弁論大会」でユニセフ募金の経緯を発表し、第３位を獲得しました。富山県の片田舎の高校でも生徒が募金活動を熱心に行っています。

この地球（ほし）に共に生きるために
～ユニセフ募金活動を通して学んだこと～
（弁論大会抄）

いま、世界では、満５歳になる前に多くの子どもたちが、予防可能な感染症にかかり、亡くなっています。このような事実をふまえ、私が考え、行動し、その結果思った事を、ここで皆さんに伝えようと思います。

私は今まで、「普通」の家庭で、「普通」に育ってきました。しかし、高校生になって、世界では多くの問題が深刻化していることを知りました。それは例えば、食料・エネルギー問題や人口爆発、経済格差問題やエイズ問題などです。これらの問題の解決に努力する人々は多いのですが、一方で、先進国のグローバリゼーションの進展が、発展途上国のローカルな次元から、反発や抵抗を呼び起こし、国際間の衝突が多いと聞いています。

（中略）

2007年10月31日　北日本新聞

意見箱で要望まとめ

生徒会 募金活動も活発

前期生徒会執行部（宮城希会長、三年）は、九月二十六日の生徒総会をもって、後期生徒会にバトンタッチした。前期生徒会は、従来以上に多彩な活動を展開した。生徒会と言えば、ともすれば学校行事の推進に終始しがちだが、一味違った活動だった。

会長の宮城さん率いる意見箱班は、校内に意見箱を設置し、校則改正などに関する生徒の要望をまとめ、それをもとに、八月に関係の先生方との話し合いの場を持った。先生方に生徒の意見を直接伝えた活動は画期的だった。

さらに美化推進班は「校内ゴミマップ」を作成し、ごみを拾うなどのクリーン活動を前進させた。また、ユニセフ班は「ユニセフ募金」の意義を訴え、校内や上市町内で募金活動を行い、四万円以上の募金を集めた。行事推進も頑張った。マラソン大会、体育大会の成功は、この班の活躍があったからだ。

後期生徒会長の梅澤綾恵さん（二年）も、前期の活動を受け継ぎ、より活発な生徒会活動への意欲を見せている。

武田さん（3年）3位

学生ユネスコ弁論大会

「第五十六回学生ユネスコ弁論大会」が九月八日、富山市安住町の県総合福祉会館で開かれ、本校三年の武田奈々さんが三位となった。

武田さんは前期生徒会執行部ユニセフ班のリーダー。同大会では、ユニセフ募金活動の経緯を語り、活動を振り返りながら「世界の現状を知ることだけではなく、自分ができることをまず行うことが大切だ」と訴えた。

自らの体験に基づいた武田さんの弁論は会場の聴衆の同感を得、持参したユニセフ募金箱に募金もあった。武田さんの栄誉を大いにたたえたい。

ユニセフ募金を呼び掛ける生徒たち＝上市町内の食品スーパー

いま振り返れば、このユニセフ募金活動は決して楽ではありませんでした。ユニセフ班に入ってくれた二人の友人は、始めは地球の深刻な現状をよく知りませんでしたので、まず、その説明から始めなくてはいけませんでした。「生徒会だより」の製作も、とても大変でした。また、募金活動がうまく行かず、泣いた日もありました。しかし、多くの人たちの善意で集まったお金で、この地球上の困っている子どもたちが救われ、感謝されると思うと、「頑張らなくてはならない」と意欲がわきました。さらに、いま思えば、感謝するのは貧困にあえぐ子どもたちではなく、このような活動を、皆さんの協力のもとで体験させて頂いた、自分自身だと感じています。この地球には、様々な深刻な問題が、まだまだ、たくさん残っています。この私の発表を聞いて頂いた皆さんの中に、「私も、何かしようかな」と思って下さった方がいらっしゃれば、とても嬉しく思います。私は、国際社会の問題点を、学校などで「ただ学び、知る」だけではいけないと思います。「知って、まず、自分ができることを行う」という行動力が、国際協力の第一歩ではないかと思います。自分たちだけの豊かさで満足していてはダメだと思います。この地球が、「全ての人が、共に、健康で人間らしく、幸せにいきることができる星」になることを目指して、私は、これからも自分が出来ることを探してゆくつもりです。そして、皆さんにも、そのような行動を訴えたいと思うのです。